

郡山市立美術館 常設展示目録

令和7（2025）年度 第1期

2025年4月23日～7月6日

※作品は都合により一部展示替えを行うことがあります。

展示室1 ターナー生誕250年

1775年4月23日に生まれたターナー（1775 - 1851）は、イギリス美術史上、もっとも偉大で影響力のある画家のひとりです。イギリスでは今日、20ポンド紙幣に描かれた国民的画家として親しまれています。

日本においても、明治時代からターナーの名前は知られていました。たとえば、夏目漱石『坊っちゃん』（1906年、明治39年）では「あの松を見たまえ、幹がまっすぐで、上が傘のように開いてターナーの画にありそうだね」とあります。

油彩画・水彩画・版画をとおして世界を捉えた彼の作品は、自然美、そして画趣（ピクチャレスク）と崇高（サブライム）、生の儚さ（希望の虚偽）や倫理を描いた「描かれた詩」として、感銘を与え続けています。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ワイ川		エッチング、メゾチント・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ノラム城		エッチング、メゾチント・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ティンタージェル城、コーンウォール	1818	エッチング、ライン・エングレーヴィング・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ティーズ川の流れ、ヨークシャー		ライン・エングレーヴィング・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ランベリス湖、北ウェールズ	1834	エッチング、ライン・エングレーヴィング・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	タイン川沿いのニューカースル	1826	メゾチント・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ブルーアム城	1825	メゾチント・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	プリマス海峡の入口のミュー・ストーン、デヴォンシャー	1816	エッチング、ライン・エングレーヴィング・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ファルマス港、コーンウォール	1816	エッチング、ライン・エングレーヴィング・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	エディスタン灯台	1824	メゾチント・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ボスカースル、コーンウォール	1825	エッチング、ライン・エングレーヴィング・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	フォークストン、ケント	1826	メゾチント・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	スカーパーラ	1826	メゾチント・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ウィットビー	1826	メゾチント・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カレー沖の釣船（ドーバー海峡）	1830	メゾチント・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ヘルゴラントの死の舟	1837	ライン・エングレーヴィング・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	バトル修道院	1816	エッチング、ライン・エングレーヴィング・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ノアの大洪水	1828	メゾチント・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ボッカチオの庭（鳥かご）	1830	メゾチント・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	夏のタペー虹	1837	ライン・エングレーヴィング・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	兵士の夢	1837	ライン・エングレーヴィング・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ワイオミングのガートルードー谷	1837	ライン・エングレーヴィング・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ワイオミングのガートルードー滝	1837	ライン・エングレーヴィング・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	アーヴロン川の水源地		エッチング、メゾチント・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	グラン・シャトルーズ近くの水車小屋	1816	エッチング、メゾチント・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ネッカー川対岸から見たハイデルベルク	1846	エッチング、ライン・エングレーヴィング・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	サン・ゴタル峠の下り道	1848	水彩・紙
ジョン・コンスタブル	デガムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス・紙
サー・エドワード・コリー・パーシジョンズ	フローラ	1868-84	油彩・キャンバス・紙

展示室2 エキゾチック・ヴィジョン ―異国への憧憬

幕末の日本の開国を機に、日欧間での人や文化の交流は急速に進みました。ペリー艦隊随行画家ハイネや、その後来日した画家ワーグマンらは、ものめずらしい日本の風物を記録し、西洋に伝えました。一方、高橋由一など日本の画家たちは、彼らから西洋画法を直接学ぶ機会を得ます。

明治期に入ると、岩倉使節団の欧米訪問やフランスのギメ使節団の東洋訪問が実現し、百武兼行やフェリックス・レガメといった画家も同行しました。帰仏後、ギメやレガメはジャポニスムの醸成に大きく寄与し、19世紀後半の西洋ではジャポニスムが広く流行します。ちょうどこの頃、日本人画家たちも西洋の絵画技法を学びに次々と渡欧しました。ここでは、幕末から明治に生まれた画家たちが、異国との出会いを受けて生み出した作品をご紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ウィルヘルム・ハイネ	『ベルリ日本遠征記』挿絵 下田浴場図	1856(安政3)	石版・紙
チャールズ・ワーグマン	物売り		水彩・紙
チャールズ・ワーグマン	座る日本女性		水彩・紙
サー・アルフレッド・イースト	村の茶店、箱根	1889頃	水彩・紙
ジョン・ヴァーレー・ジュニア	東京、麻布	1891	油彩・板
アルフレッド・ウィリアム・パーソンズ	鎌倉の茶店		グワッシュ・紙
モーティマー・メンペス	新作芝居	1887頃	エッチング、ドライポイント・紙
五姓田 義松	婦人像	1871(明治4)頃	油彩・キャンバス
五姓田 義松	園田御令嬢肖像	1902(明治35)	コンテ・紙
高橋 由一	風景（鳥海山）	1880年代	油彩・キャンバス
エドアルド・キヨソネ	岩倉具視公肖像	1889(明治22)	銅版・紙
			明治版画コレクション

作者名	作品名	制作年	技法・材質
中川 耕山	『米欧回覧実記』挿絵 〔第3巻〕「巴黎「チュロリー」宮ノ樓門/同宮苑ヨリ凱旋門ヲ望ム景」	1878(明治11)	銅版(エッチング、一部アークアチント併用)・紙/本
百武 兼行	風車のある風景	1877(明治10)	油彩・キャンバス
フェリックス・レガメ	京都での当社の画家(「ハーバース・ウイークリー」1877年5月5日付挿絵)	1877	木口木版・紙
ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	ビルングズゲイト	1859	エッチング、ドライポイント・紙
山本 芳翠	『蜻蛉集』(ユディット・ゴーティエ著)	1884(明治17)	石版・紙/本
山本 芳翠	園田銚像	1885(明治18)	油彩・キャンバス
黒田 清輝	東久世伯肖像エスキース	1894(明治27)	油彩・キャンバス
三宅 克己	ブルージュ	1910(明治43)	水彩・紙
三宅 克己	セーヌ河畔サンジェルマンを望む		水彩・紙
石井 柏亭	ピサ	1911(明治44)	水彩・紙
小川 千甕	サン・ドニ風景	1913(大正2)	水彩・紙
南 薫造	日没		水彩・紙
太田 喜二郎	サン・ピエール寺院	1910-11(明治43-44)	油彩・キャンバス
栗原 忠二	ヴァンス風景		油彩・キャンバス
栗原 忠二	遠くに橋の見える風景、ストランド＝オン＝グリーン		油彩・ボード
吉田 ふじを	レニヤ山		水彩・紙
小寺 健吉	セーヌ河畔	1922(大正11)	水彩・紙
小寺 健吉	アンシイ湖畔	1922(大正11)	水彩・紙
川島 理一郎	コルシカ島サゴーン風景	1921(大正10)	油彩・キャンバス
間部 時雄	カーニュにて	1923(大正12)	油彩・スケッチボード
長谷川 潔	シャトー・アルヌーの寺院	1932(昭和7)	メゾチント・紙

展示室3 明治石版画と町田信次郎

日本で本格的な石版画制作が始まったのは明治初期のことです。明治10年代になると、石版画は徐々に普及し、明治20年代前半には伝統的な浮世絵版画にも劣らぬ絶大な人気を誇りました。

明治時代に隆盛を極めた石版画の世界で、石に描画する石版画工として活躍した人物が町田信次郎(1871-1955)です。黎明期の日本洋画を代表する本多錦吉郎の影技堂に入門して洋画や石版の技術を学び、その後は石版印刷の道へと進みます。1914（大正3）年には、信次郎から「隆要」と名を改め、東京銀座の三間印刷所で画工として多くの石版ポスターを手がけ、時代を彩りました。

ここでは、近年ご寄贈いただいた明治期の石版画と町田信次郎作品をご紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
亀井 至一	(名古屋城に戻された金の鯀)	1879(明治12)頃	石版、手彩色・紙
亀井 至一	東京下谷芸妓小幾	1883(明治16)	石版、手彩色・紙
村井 巖之助	婦人像	1874(明治7)	水彩、鉛筆・紙
村井 巖之助	少女	1874(明治7)	水彩、鉛筆・紙
亀井 至一	亀井家伝来資料 スケッチブックより村井巖之助肖像		水彩、鉛筆・紙
村井 巖之助	汐干狩	1892(明治25)	石版・紙
村井 巖之助	(自由新聞附録)	1891(明治24)	石版・紙
浅井 忠	静御前鶴ヶ岡祠前二演舞ノ図	1890(明治23)	石版・紙
岡村 政子	牛若丸	1889(明治22)	石版、手彩色・紙
亀井 竹二郎	石版『懐古東海道五十三驛真景』油彩原画より興津驛 清見寺三保松原遠望		油彩・紙
亀井 竹二郎	『懐古東海道五十三驛真景』より興津驛 清見寺三保松原遠望	1892(明治25)	多色石版・紙
亀井 竹二郎	『懐古東海道五十三驛真景』より興津驛 清見寺三保松原遠望	1892(明治25)頃	多色石版・紙
亀井 竹二郎	『懐古東海道五十三驛真景』(徳永柳舟・町田信次郎画作、大山印刷所発行)より		
	『『懐古東海道五十三驛真景』広告』	1891-92(明治24-25)	石版・紙/ポर्टフォリオ
亀井 竹二郎	大和国龍田川景	1876-78(明治9-11)	油彩・ボード
亀井 竹二郎	大和国春日ノ神社ノ若宮ノ夜景	1875(明治8)	油彩・キャンバス
町田 信次郎	日本風景 耶馬溪青洞門之真景	1906(明治39)	多色石版・紙
亀井 至一	(名古屋城に戻された金の鯀)	1879(明治12)頃	石版、手彩色・紙
亀井 至一	東京下谷芸妓小幾	1883(明治16)	石版、手彩色・紙
村井 巖之助	婦人像	1874(明治7)	水彩、鉛筆・紙
村井 巖之助	少女	1874(明治7)	水彩、鉛筆・紙
亀井 至一	亀井家伝来資料 スケッチブックより村井巖之助肖像		水彩、鉛筆・紙
村井 巖之助	汐干狩	1892(明治25)	石版・紙
村井 巖之助	(自由新聞附録)	1891(明治24)	石版・紙
浅井 忠	静御前鶴ヶ岡祠前二演舞ノ図	1890(明治23)	石版・紙
岡村 政子	牛若丸	1889(明治22)	石版、手彩色・紙
亀井 竹二郎	石版『懐古東海道五十三驛真景』油彩原画より興津驛 清見寺三保松原遠望		油彩・紙
亀井 竹二郎	『懐古東海道五十三驛真景』より興津驛 清見寺三保松原遠望	1892(明治25)	多色石版・紙
亀井 竹二郎	『懐古東海道五十三驛真景』より興津驛 清見寺三保松原遠望	1892(明治25)頃	多色石版・紙
			明治版画コレクション
			長谷川宏コレクション寄贈
			丹尾安典コレクション寄贈
			長谷川宏コレクション寄贈
			加藤静子氏寄贈
			加藤静子氏寄贈
			佐藤忠雄、英雄、文雄、信雄氏寄贈
			長谷川宏コレクション寄贈
			長谷川宏コレクション寄贈
			長谷川宏コレクション寄贈
			明治版画コレクション
			長谷川宏コレクション寄贈

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
亀井 竹二郎	『懐古東海道五十三驛眞景』 <div>（徳永柳舟・町田信次郎画作、大山印刷所発行）より</div> <div>「『懐古東海道五十三驛眞景』 広告」</div>	1891-92(明治 24-25)	石版・紙/ポートフォリオ	明治版画コレクション
亀井 竹二郎	大和国龍田川景	1876-78(明治 9-11)	油彩・ボード	
亀井 竹二郎	大和国春日ノ神社ノ若宮ノ夜景	1875(明治 8)	油彩・キャンバス	
町田 信次郎	日本風景 耶馬溪青洞門之眞景	1906(明治 39)	多色石版・紙	長谷川宏コレクション寄贈
町田 信次郎	大元帥陛下御尊影	1908(明治 41)	石版・紙	長谷川宏コレクション寄贈
町田 信次郎	両陛下両殿下御尊影	1900(明治 33)	石版・紙	丹尾安典コレクション寄贈
町田 信次郎	当世風俗花と美人 情緒纏綿	1909(明治 42)	二色石版・紙	丹尾安典コレクション寄贈
町田 信次郎	当世風俗花と美人 薔薇の花	1908(明治 41)	二色石版・紙	丹尾安典コレクション寄贈
町田 信次郎	今様風俗 其一（歌留多遊び）	1900(明治 33)	石版・紙	加藤静子氏寄贈
町田 信次郎	美人園 其一 雛妓の歌舞	1896(明治 29)	石版・紙	明治版画コレクション
波々伯部 繁	芸妓競	1893(明治 26)	石版・紙	明治版画コレクション
町田 信次郎	裸婦	1889(明治 22) 頃	鉛筆・紙	
町田 隆要（信次郎）	「松坂屋いとう呉服店ポスター」 下図	1922(大正 11) 頃	水彩、鉛筆・紙	加藤静子氏寄贈
町田 隆要（信次郎）	「ユニオンビール ポスター」 下絵	1921(大正 10) 頃	水彩、鉛筆・紙	加藤静子氏寄贈
町田 隆要（信次郎）	「東亜煙会社ポスター」 下絵	1920(大正 9) 頃	水彩、鉛筆・紙	加藤静子氏寄贈
町田 隆要（信次郎）	「東亜煙会社ポスター」 下絵	1920(大正 9) 頃	水彩、鉛筆・紙	加藤静子氏寄贈
町田 隆要（信次郎）	「台湾製糖株式会社ポスター」 下図	1921(大正 10) 頃	水彩、鉛筆・紙	加藤静子氏寄贈
町田 信次郎	「ダイヤモンド印サイダー オレンジ ポスター」下絵	1903-11(明治 36-44) 頃	水彩、鉛筆・紙	加藤静子氏寄贈

展示室 4-① 創作版画の時代

江戸時代に隆盛をきわめ、錦絵とも呼ばれる浮世絵版画は、絵師・彫師・摺師といった職人による分業で制作されました。明治以降、銅版や石版など多様な版種の普及により、印刷技術として発展した版画は、明治末から大正期にかけて創作性や芸術性が重視され、作家の自画・自刻・自摺をうたった創作版画運動へと繋がりました。一方で、錦絵の隆盛によって熟達した木版画の技法や職人を生かしながら画家の独創性や芸術性を表現した版画制作も続き、それらを新版画と呼ぶようになりました。

今回は、大正期から昭和戦前期にかけて、自画・自刻・自摺による創作版画と、職人との協働による新版画が共存しながら生み出された豊かな版

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
田中 恭吉	『月に吠える』（萩原朔太郎著、感情詩社、白日社出版部）	1917(大正 6)	木版他・紙/本	
恩地 孝四郎	『一木会豆版画帖 博物譜』（恩地孝四郎編、青園荘）	1950(昭和 25)	木版・紙/本	
加藤 太郎	『JEU D'OBJET 1』	1945(昭和 20)	木版・紙/本	
加藤 太郎	『JEU D'OBJET 2』	1945(昭和 20)	木版・紙/本	
	『HANGA 第壹輯』（版画の家）より 表紙	1924(大正 13)	木版、エッチ/ポートフォリオ	
	『HANGA 第二輯』（版画の家）より 3点	1924(大正 13)	木版・紙/ポートフォリオ	
	『HANGA 第三輯』（版画の家）より 6点	1924(大正 13)	木版・紙/ポートフォリオ	
	『HANGA 第四輯』（版画の家）より 2点	1924(大正 13)	木版・紙/ポートフォリオ	
大内 青圃	『版芸術 創刊号』表紙（白と黒社）	1932(昭和 7)	木版・紙/本	
棟方 志功	『版芸術 第十二号 棟方志功版画集』（白と黒社）	1933(昭和 8)	木版・紙/本	
	『版芸術 第十九号 続全国郷土玩具版画集』（白と黒社）	1933(昭和 8)	木版・紙/本	
	『白と黒 創刊号』表紙（白と黒社）	1937(昭和 12)	木版・紙/本	
	『白と黒 第四号』表紙（白と黒社）	1937(昭和 12)	木版・紙/本	
	『書窓版画帖十連聚其一 都会生活』（アオイ書房）	1941(昭和 16)	石版・紙/本	
	『書窓版画帖十連聚其二 港都情景』（アオイ書房）	1941(昭和 16)	木版・紙/本	
	『書窓版画帖十連聚其三 文明開化往来』（アオイ書房）	1941(昭和 16)	木版・紙/本	
	『書窓版画帖十連聚其四 新野外小品』（アオイ書房）	1942(昭和 17)	木版・紙/本	
	『書窓版画帖十連聚其五 東京の窓』（アオイ書房）	1942(昭和 17)	エッチング・紙/本	
	『書窓版画帖十連聚其六 宇宙説』（アオイ書房）	1942(昭和 17)	エッチング、ドライポイント・紙/本	
	『書窓版画帖十連聚其七 水鏡譜』（アオイ書房）	1942(昭和 17)	木版・紙/本	
	『書窓版画帖十連聚其八 蟲・魚・介』（アオイ書房）	1943(昭和 18)	木版・紙/本	
	『書窓版画帖十連聚其九 伊豆一周画』（アオイ書房）	1943(昭和 18)	木版・紙/本	
	『日本風景版画 第二集 会津之部』（日本風景版画会）より3点	1917(大正 6)	木版・紙/ポートフォリオ	
	『日本風景版画 第三集 東北之部』（日本風景版画会）より3点	1917(大正 6)	木版・紙/ポートフォリオ	
	『日本風景版画 第六集 筑紫之部』（日本風景版画会）より4点	1918(大正 7)	木版・紙/ポートフォリオ	
	築地風景	1912(大正元)	木版・紙	
	浦の漁灯	1913(大正 2)	木版・紙	
	鍵（詩画集の 8）	1933(昭和 8)	木版・紙	
	Lyrique No.2 楽曲によせる抒情 ラヴェル “道化師の朝歌”	1933(昭和 8)	木版・紙	
	裸婦		木版・紙	
	ハノヴィン祭（ハロウィン）	1936(昭和 11)	エッチング・紙	
	鏡	1938(昭和 13)	エッチング・紙	
	少女と大このはづく	1939(昭和 14)	リトグラフ・紙	

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
安井 曾太郎	『安井曾太郎版画集』（石原求龍堂）より 魚とさざえ	1933(昭和 8)	木版・紙	
安井 曾太郎	『安井曾太郎版画集』（石原求龍堂）より 果物	1932(昭和 7)	木版・紙	
安井 曾太郎	『安井曾太郎版画集』（石原求龍堂）より 椅子に凭れる女	1932(昭和 7)	木版・紙	
安井 曾太郎	『安井曾太郎版画集』（石原求龍堂）より 薔薇	1932(昭和 7)	木版・紙	
吉田 博	せと奈いかい高浜港	1928(昭和 3)	木版・紙	
吉田 博	神の島	1930(昭和 5)	木版・紙	

展示室 4-② 金属器の表情

この展示では、銀、鉄、銅、真鍮といった多様な種類の金属器を紹介します。金属は種類毎に外見や性質に違いがあるのはもちろんですが、同じ金属であってもデザインや加工技術、組み合わせる材質によって全く異なる姿を見せます。

イギリス人デザイナー、クリストファー・ドレッサーは陶磁器やガラスの製品も手がけましたが、金属器においては産業革命による大幅な技術革新を取り入れ、洗練された造形を数多く生み出しました。郡山ゆかりの作家からは、熱で柔らかくなるガラスの性質と鍛鉄を組み合わせた佐藤潤四郎、銀の展延性を生かした遠藤兆映の作品を展示します。作家によって引き出された多彩な表情をお楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
クリストファー・ドレッサー	『装飾デザインの原理』	1874	本	
	『ストゥーディオ』 第 15 巻	1898	本	
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック（青海波）	1879-1882 頃	金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック（ポイントアーチ型）	1879	金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	レター・ラック&ブックエンド	1885	金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	レター・ラック（円形、可動式）	1881	金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	日本風把手付き薬味入れ		ガラス、金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	六角型薬味入れセット		ガラス、金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ（ぶどう酒用容器）		ガラス、金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ、黒檀把手（ぶどう酒用容器）		ガラス、金属、電気メッキ、黒檀把手	
クリストファー・ドレッサー	ミルク入れ	1880	金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	銀製ティー・セット	1885	銀、象牙、金メッキ	
クリストファー・ドレッサー	シュガー・バスケット（穴あきふるい付き）	1884	金属、銀メッキ	
クリストファー・ドレッサー	柳編み把手付きダブル・バスケット	1881	金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	スプーン・ウォーマー		金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	ダブル・バスケット（楕円形）	1880	金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	スプーン・ウォーマー		金属、電気メッキ、黒檀把手	
クリストファー・ドレッサー	蓋付きバスケット、黒檀把手		金属、銀メッキ、黒檀把手	
クリストファー・ドレッサー	緑釉サラダボウル（サーバー付き）	1879-82 頃	陶器、金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	ナイフとフォークのセット		金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	草花象嵌模様足付皿		銀、銅、真鍮	
クリストファー・ドレッサー	孔雀象嵌模様円形皿		銀、銅、真鍮	
クリストファー・ドレッサー	真鍮把手付きケトル	1885	銅、真鍮	
クリストファー・ドレッサー	足つきケトル		銅、真鍮、木製把手	
クリストファー・ドレッサー	真鍮製燭台（一対）		真鍮	
クリストファー・ドレッサー	ファイヤードッグ（暖炉の薪台）		真鍮	
佐藤 潤四郎	鍛鉄吹込花器（グリーン）	1986(昭和 61)	ガラス、鉄/鍛鉄吹込	
佐藤 潤四郎	鍛鉄吹込花器		ガラス、鉄/鍛鉄吹込・雲母封入	
佐藤 潤四郎	鍛鉄吹込花器・灯もつけて	1986(昭和 61)	ガラス、鉄/鍛鉄吹込	
佐藤 潤四郎	鍛鉄吹込花器（顔）	1986(昭和 61)	ガラス、鉄/鍛鉄吹込	
遠藤 兆映	風かおる	1996(平成 8)	銀	遠藤兆映氏寄贈
遠藤 兆映	香器・樹海	1988(昭和 63)	銀	遠藤兆映氏寄贈

ロビー展示 彫刻・他

	作者名	作品名	制作年	技法・材質	
●1階	アントニー・ゴームリー	領域 XIII	2000	ステンレス・スチール棒	
	アントニー・ゴームリー	量子雲 XXIII	2000	ステンレス・スチール棒	
	笠置 季男	躍進	1958（昭和 33）	セメント	
●2階展示ロビー	北村 四海	井氷鹿の娘	1917（大正 6）	大理石	
	細川 宗英	道元	1988（昭和 63）	ブロンズ	
	柳原 義達	女の首	1958（昭和 33）	ブロンズ	
	堀内 正和	顔	1955（昭和 30）	鉄、セメント	
	佐藤 静司	遙か	1989（平成元）	ブロンズ	宇野洋子氏寄贈
●前庭	バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ	